

## (仮称)新!ひのっ子すくすくプラン(素案)説明会の要旨について

### 1 開催日時及び開催場所

(1)平成27年1月10日(土)10時~11時 出席人数 7人(男4人・女3人)  
市役所本庁舎5階505会議室

(2)平成27年1月13日(火)18時30分~19時30分 出席人数6人(男2人・女4人)

七生福祉センター

### 2 市側出席者

子ども部長 大島康二 子育て課長 中田秀幸 子ども部主幹 高原洋平  
子育て課課長補佐 谷光彦 子育て課副主幹 谷剛毅

### 3 説明資料

(仮称)新!ひのっ子すくすくプラン(素案)

### 4 説明内容(要旨)について

#### (1)計画(素案)説明

①計画構成(序章~第7章)の説明

②第2章(p.21・22・27・28・29・31~50)

③第3章(p.51・52・53)

④第4章(p.55)

⑤第5章(p.57・70・79・87・94・103・109・114)

⑥第6章(p.119・120・121・122・124・127・128~129・132・136)

⑦第7章(p.140・141)

#### (2)パブリックコメントについて

①市ホームページへ掲載

②下記設置場所の窓口に素案を設置(全34か所)

※素案設置場所 市役所2階子育て課窓口、子ども家庭支援センター、市政

図書室、市内各図書館、七生支所、豊田駅連絡所、各児童館、市立保育園

③意見受付方法:平成27年1月23日(消印有効)

郵送、E-Mail又はFAX、または持参で受付

意見、住所、氏名、電話番号を記入

#### 【意見の送付先】

郵送:〒191-8686 日野市役所子ども部子育て課宛

ファックス:042-583-4198

Eメール: jidouf@city.hino.lg.jp

### 5 主な質問及び回答

質問1 保育需要(ニーズ量)について、潜在的需要(ニーズ量)は見込まれているのか。

回答1 保育におけるニーズ量については、潜在的需要も含めて算出している。

質問2 学童クラブは国の施策として行っているが、放課後子ども教室(ひのっち)は国の施策に組み込まれていないのか。

回答2 国において、現在放課後子ども総合プランという施策を打ち出している。放課後子

ども総合プランとは、放課後児童クラブ（学童クラブ）と放課後子ども教室（ひのっち）を一体型もしくは連携型で実施していく。放課後子ども教室については、次世代育成支援対策推進法に位置付けされている。放課後子ども教室は、新制度の枠組みの外にはあるが、放課後児童クラブと一体となって子どもたちの放課後を支えていくという考え。

質問3 家庭的保育事業は日野市でどのくらい実施しているのか。

回答3 家庭的保育事業（保育ママ）は、5人以下のお子さまを保育者のご自宅でお預かりしている。日野市では東京都の家庭的保育事業の枠組みの中で、7人の保育ママが子どもをお預かりしている。

質問4 子育て支援員は、市町村が実施する研修を受けることになっているが、どのような研修を実施するのか。

回答4 子育て支援員の研修については、国が示すガイドラインによる全国共通の研修過程として、都道府県又は市町村が実施することになる。現時点において、国から研修のメニュー等が示されていない状況。年度内には方向性が示されると思っている。

質問5 団塊の世代が保育事業へ関与していったらどうか等の話は、子ども・子育て支援会議であったか。

回答5 保育事業への関与という視点では話題に上がらなかったが、ひのっちにおいて放課後支援という視点から多大なる力添えをいただいている。ひのच्छは日野市は17校実施しており他市と比較すると充実している。今後、保育分野において、お力を貸していただけるということは非常に有意義であると認識している。

質問6 放課後について、学童クラブ・ひのच्छ・児童館の3つで支えるということだが、学童クラブとひのच्छの役割が同じになるとう考えはあるのか。

回答6 学童クラブとひのच्छは、成り立ちも位置づけも異なる。お互いに連携を図りながら支えていくという考えは変わらない。ひのच्छは全児童を対象として放課後の見守り、学童クラブは必要とする児童を育成するという観点。市としては児童館も含めて必要な人に必要な環境を提供していく。

質問7 現在の待機児童数は何人か。また、小規模事業について、認可していく基準は認可保育園と同じなのか。質の確保をどのように考えているか。

回答7 平成26年4月1日の待機児童数は188人。小規模保育事業については、A型（保育所分園、ミニ保育所に近い類型）、C型（家庭的保育に近い類型）、B型（中間型）の3類型を設け、認可基準を設定する。日野市においては、認可保育園と同様のA型で調整し質の確保に努めていく。

質問8 夏休みにひのच्छを開催することについてどのように考えているか。

回答8 保護者を対象に実施したアンケート調査で、夏休みにひのच्छの開催を求めるニーズが高く課題として認識している。アンケート調査の結果や過去の実施状況などを踏まえ実施方法等を検討していきたいと考えている。